

乳がんとは…

乳がんとは乳房にできるがんです。乳房の中には乳腺という組織があり、赤ちゃんにミルクを与えるために発達しています。乳腺は、ミルクを作る小葉とミルクを乳頭まで運ぶための乳管で構成されています。乳がんの多くは末梢の乳管から発生します。

乳がんの発生には、エストロゲンという女性ホルモンが関わっています。エストロゲンは女性の体にとって大切なホルモンではありますが、エストロゲンにさらされる期間が長いと、乳がんにかかりやすくなります。近年、食生活の欧米化に伴って女性の体格がよくなり、「初潮が早く閉経が遅い人」が増えたため、乳がんの発生率は上がっていると考えられています。日本では、生涯12人に1人が乳がんにかかると言われていています。乳がんの発生は、20歳過ぎから認められ30歳代ではさらに増え、40歳代から50歳代がピークです。

乳がんを早く見つけるためには…

- ① 検診をうける(市町村が行っている対策型検診、本人が任意でうける任意検診)
- ② 症状を自覚したら、早く乳がん専門機関を受診する。

乳がん検診

視触診、マンモグラフィ、超音波検査を受けて頂きます。

*市町村（都城・）の受診券をお持ちください。

*乳がんにみられる自覚症状

乳房やわきの下にしこりがある

乳房にひきつれ、くぼみがある

乳頭の異常（湿疹・ただれ・分泌物）がある

乳房の皮膚に異常（発疹・はれ・ただれ）がある

乳房の膨大感（発赤・痛みを伴う）がある

乳房に関わる相談について、当院では気軽にご相談いただければ、乳がん専門医と放射線技師、看護師が相談を承っております。